

# ⑧大給恒

★中学校二年 二学期実施

## 主題 博愛の心

B(6) 思いやり、感謝

### 一 醸成したいおかげの心

『敵味方の区別なく、助かる命を救いたい』と、日本赤十字の基盤を作るために奔走した岡崎の先人から学ぶ、博愛の心

### 二 教材 「日本赤十字の父」

『明るい人生中学三年 補充資料』（愛知県教育振興会）参照

大給恒は、西南の役の負傷者を救う方法を佐野常民と模索し、敵味方区別なく救護するという「博愛社」設立に奔走しました。しかし、敵軍の負傷者を救護するという文言があるため政府は認めませんでした。常民は直接九州にいる政府の総司令官に許可を願い出て博愛社が設立され、多くの命を救いました。今は日本赤十字社と名称を変え、世界の平和のために活動を続けています。

### 三 本時のねらい

- (1) 大給恒が「敵味方区別なく」という言葉を大切にし、「博愛社」を設立したことで多くの命が救われたことに気付かせる。
- (2) 敵味方の区別なく、誰でも人を大切に思う人間愛の精神を養う。

## 四 発問例

発問① 「大給恒は『博愛社』にどんな願いを込めていたでしょう。」

(中心)

- ・ 敵味方関係なく、すべての命を救いたい
- ・ 命はみな平等だ
- ・ 相手を思いやる気持ちで、戦を終えたい
- ・ 命に敵も味方もない
- ・ 生きて家族のもとに帰らせた

補助発問① 『西郷軍まで助けることはいかかなものか』と、親

族に博愛社の設立を反対されたとき、恒はどんな気持ちだったでしょう。」

- ・ どうしてわかってくれないんだ
- ・ 人の命を助けることは大切だ
- ・ ここで負けるわけにはいかない
- ・ 絶対に説得したい
- ・ 人の命に敵味方の区別はない
- ・ どんな人にも悲しむ家族がいる
- ・ 西南戦争で多くの人が死んだり負傷したりしているのは見過ごせない

補助発問② 「博愛社によって多くの尊い命が救われたことを知っ

たとき、恒はどんな気持ちだったでしょう。」

- ・ やり遂げてよかった
- ・ みんなのおかげで多くの命を救うことができた
- ・ 相手を思いやる気持ちが多くて命を救ったんだ

(自覚) 「大給恒の姿から、あなたが感じた『博愛の心』とはどんなことですか。」

- ・ すべての人を平等に思いやる心
- ・ 自分の周りの人を大切に思う心
- ・ 命を大事にする心
- ・ 相手を思う気持ちを伝え、行動に移すこと